

## 序 文

今日、日本の経済成長の高さは世界的に評判が高い。

その理由は色々ある。しかし、日本の教育水準の高さがいわゆる「技術革新」を消化し得る高能力の労働力を供給した事が主因の一つである事は定説と言えよう。これを思えば明治初年の森有礼に、我々はあらためて脱帽する必要がある。

しかし、今や明治以来の教育制度は大揺れに揺れている。その一端は大学紛争と言う形で見えている。そしてその対策を求めて凡百の声が潮のように湧き上っている。

曰く、後期中等教育の多様化、曰く、六三制の再検討、曰く、大学制度改革等々。而して我が職業訓練はこれらの教育の変革を対岸の火災視得ない事情にあることは明らかである。特に養成訓練は「教育」と複雑にからんだ状況にあるだけに更に然りである。教育と言ひ、職業訓練と言ひ、所詮は国民の能力開発に連るもので、それが70年代の我が国の発展の決め手になるであらう事は、明白であるばかりでなく、実は単に「労働力不足問題」と言う表現では蔽えないほどに深刻である。この時機に当たつて、内田主任研究員による本稿の意義は特に高いと言えるであろう。職業訓練法が改正をみたとは言へ、流動する社会情勢下で職業訓練制度を教育情勢に沿うように修正、運用する必要は益々高まつており、海外制度の情報は重要な参考となるからである。

訓大調査研究部では職業訓練の制度、原理に関する研究を一つの支柱としているが、本論はその一つの成果であり、内田主任研究員による多年の収集情報に加えて昨年同氏の訪欧調査結果を纏めたものである。本論の比較教育学的価値もさることながら、これが職業訓練の制度運用の衝に当られる方々の有力な判断資料になるであろうことを信じて疑わない。

(調査研究部長 宗 像 元 介 記)  
(工学博士)

## 筆者のことば

諸外国の職業訓練に関連する教育制度や、特に欧米における職業訓練の調査研究に過去5年有余、ILOの特別機関CIRF（国際職業訓練情報調査センター）発行の文献を中心に研究、翻訳、解説、紹介等に専念して来た筆者は、偶々労働省並びに雇用促進事業団の御推薦により日本生産性本部主催の渡欧労務管理専門視察団団長として各専門家の御協力を得て昭和44年6月7日から7月23日迄欧州7カ国及米国各地の職業教育訓練の実情を視察する機会を得て、過去の研究の裏付けをとることが出来ましたことは望外の喜びでありました。茲にその総括的記録を職業訓練大学校機関誌“調査研究報告書才20号”として発表する次第であります。

技術革新に対応するため職業訓練の大巾な改革が進められ教育訓練の充実化が急速に進展しつつある欧州各国の現情に関する本報告が職業訓練法の改正に踏み切った日本の職業訓練当局者或は教育訓練関係者各層に聊かの示唆ともなれば幸甚であります。

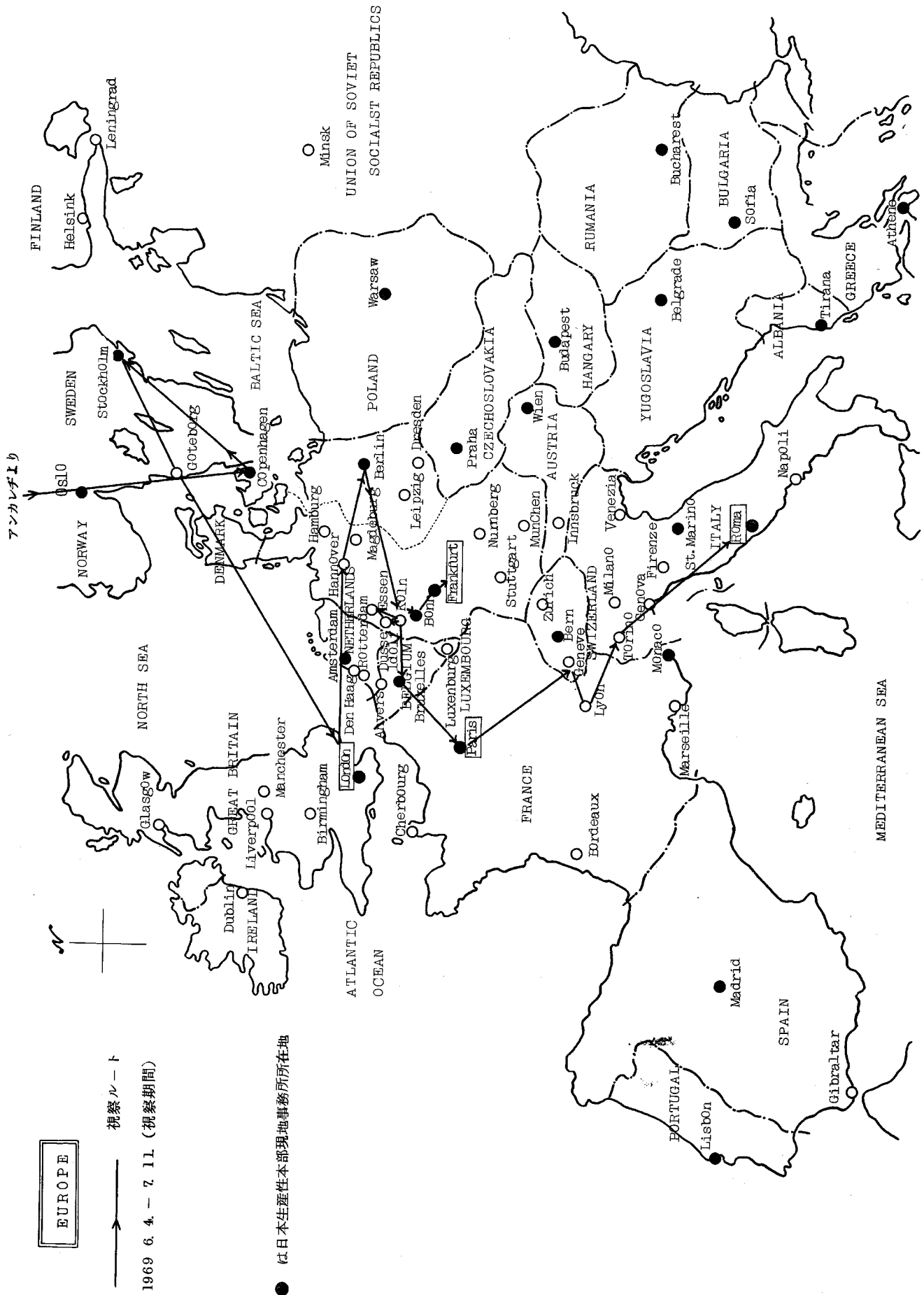
職業訓練大学校  
主任研究員

内 田 悦 弘

EUROPE

視察ルート  
 1969. 6. 4. - 7. 11. (視察期間)

● は日本生産性本部現地事務所所在地



アンカレッジ

# 視 察 日 程

(1969年)

月 日 (曜)	都 市	現地時間	交通機関	プ ロ グ ラ ム
6月 7日 (土)	東 京 発	22:30	JL#401	
8日 (日)	コペンハーゲン着 コペンハーゲン発 ストックホルム着	06:25 09:30 10:35	PA#44	坂本本部駐在員と合流 打合せ
9日 (月)	(ストックホルム)			午前L.O.午後S.A.F
10日 (火)	( " )			午後A.G.A
11日 (水)	ストックホルム発 ロンドン着	13:55 17:30	SK#509	移 動
12日 (木)	(ロンドン)			午前T.U.C午後INDUS TRIAL SOCIETY
13日 (金)	( " )			C.A.V.LTD.
14日 (土)	( " )			
15日 (日)	( " )			
16日 (月)	( " ) ロンドン発 ベルリン着	18:40 21:35	LH#223	午前 労働省訪問 羽根本部駐在員と合流
17日 (火)	(ベルリン)			羽根駐在員と打合せ
18日 (水)	( " )			SIEMENS A.G.
19日 (木)	ベルリン発 フランクフルト着	09:00 09:55	PA#685	移 動 AKADEMIE DER ARBEIT
20日 (金)	(フランクフルト)			HESSISCHE BERG UND HUTTENWERKE A.G.
21日 (土)	( " )			
22日 (日)	フランクフルト発 ケルン着		バスで移動	
23日 (月)	(ケルン)			A.B.B.

月 日 (曜)	都 市	現地時間	交通機関	プ ロ グ ラ ム
6月24日 (火)	( " )			公式訪問 D.G.B.
25日 (水)	( " )			B.D.A.
26日 (木)	デュツセルドルフ発 ブラツセル着	09:45 10:25	SN#712	移 動 高木本部駐在員と合流, 打合せ及び団ミーティング F.I.B
27日 (金)	( ブラツセル )			VOLKSWAGEN BELGE
28日 (土)	ブラツセル着 パ リ 着	11:35 12:25	SN#633	移 動
29日 (日)	(パ リ)			
30日 (月)	( " )			FENWICK社 C.N.P.F
7月 1日 (火)	( " )			A.F.O.R.P.
2日 (水)	( " )			公式訪問 FERODO社
3日 (木)	パ リ 発 ジュネーヴ着	12:00 12:50	SR#723	
4日 (金)	(ジュネーヴ)			午前 I.L.O. 午後 団ミーティング
5日 (土)	( " )			ILO.CIRF
6日 (日)	ジュネーヴ発 トリノ着	13:10 18:40	汽 車	千藤本部駐在員と合流, 打合せ
7日 (月)	(トリノ)			公式訪問 FIAT 社
8日 (火)	トリノ発 ローマ着	15:30 16:25	AZ#243	午前 I.L.O. 職訓セ ンター
9日 (水)	(ローマ)			午前 C.G.I.L. 午後 団ミーティング
10日 (木)	( " )			団最終会合
11日 (金)	( " )			団解散 U.S.Aへ出発 別途USA視察団として

(12日～24日 米国各地職業訓練中心に視察)

(日程中、本部駐在員とは日本生産性本部各国駐在員を謂う)